

# 「生産者・需要者 情報連携サービス」開発 生産者と需要者の合同ワークショップによりサービス要件を明確化

採択事業者名 (株)インダストリー・ワン

コンソーシアム構成員 伊予銀行(株)

## 事業概要

### 目的

生産者の販売ロス削減を目的に、生産者と需要者の情報連携を円滑化するための「生産者・需要者 情報連携サービス」を企画している。本年度は開発に向けたニーズ調査、要件定義(一部)を実施した。

### 課題

消費期限が短く収量の変動が大きい青果物は、収量の変動に応じて販路開拓・販売数量を調整することが必要である。しかし、多くの農業生産者は1~2名と少数で営業機能を担っており、販路開拓・数量調整を消費期限内に実施することが困難な状況にある。特に収量が増大する時期に廃棄・投売りが発生し、これは年間収量の20%にも及んでいる。

### 解決策

生産者が最新の商品情報をオンライン上で需要者へ連携し、需要者が産地状況に応じた拡販施策を実施することを目指す(新商品の導入、イベント開催、SNSを活用した販促施策、等)本プロジェクトでは、生産者・需要者が情報連携して拡販施策を講じるために必要な情報連携サービスの要件を明確にする。



### 取り組み内容

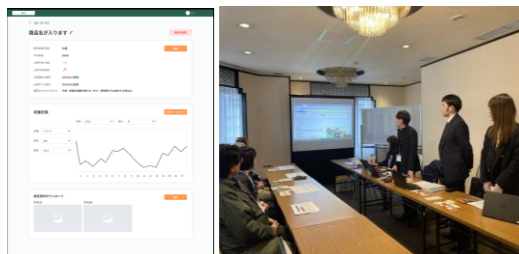
■対象とする商流  
下記2つの商流にて、取り組みを推進した。  
A:仲卸商流(生産者→仲卸→小売)  
B:直売商流(生産者→小売)

■実施内容  
①生産者の課題調査、生産・販売実績データ分析

②需要者とのサービス要件整理

③生産者・需要者合同ワークショップ

④サービスニーズ・運用性の評価



### 検証項目

■サービス活用による売上向上の期待値  
・拡販施策を実施するために連携すべきデータ項目を検証

・情報連携によって創出される商談回数を評価

・拡販施策の実施によって創出される新規取引量を評価

■サービス有用性の評価

・生産者視点での、サービスニーズを評価

・生産者視点での、サービス運用性を評価

### 取得データ

インタビューやワークショップ、アンケートを通して、上記検証に必要な情報を収集した。

### データ活用による考察・示唆

生産者は、既存データを活用して需要者と情報連携することで、小売1社につき年間52回の商談機会を得られる。また、本商談を通して拡販施策を実施することで、仲卸商流では360ケース(週30ケース×12週)、直売商流では140パック(1日10パック×14日)の新規取引創出が期待できる。

## 成果と今後

### 成果(含む想定)

産地状況に応じた拡販施策を実現するための、「生産者・需要者 情報連携サービス」の要件を明確化した。今後、サービス実用化による愛媛県産青果物の売上向上実績構築に向け、各事業者との検討を推進する。

		実装前	実装後(～今年度)	今後3年
定量面	金額	➢ -	➢ -	➢ -
	重要指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 商談にオンラインサービスを活用している生産者は、インタビューした9生産者中1生産者のみである。</li> <li>➢ 収量増大時に販売先を獲得できず、生産者によっては年間収量のうち20%が廃棄・投売りととなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 勉強会に参加した8生産者中6生産者が、商談に「生産者・需要者 情報連携サービス」を活用したいと回答した。</li> <li>➢ サービス活用により、1生産者あたり下記の売上向上が期待できることを確認した。 ・仲卸商流:360ケース/年 ・直売商流:140パック/年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 生産者63社へのサービス実装を想定している。 ・仲卸商流:13生産者 ・直売商流:50生産者</li> </ul>
定性面		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 現在は電話で営業を行っており、生産者が需要者へ伝達できる情報量が不足している。</li> <li>➢ 出荷量や商品規格に関して、生産者・需要者間での認識齟齬が生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ サービス画面を用いた机上シミュレーションにより、生産者・需要者双方が取引機会創出に必要なコミュニケーションに本サービスを活用できることを確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 生産者と需要者の認識齟齬を減らし、円滑に商談を推進していくことを目指す。</li> <li>➢ 生産者・需要者の連携を加速し、マーケットニーズに基づく生産規模の拡大を促進していくことを目指します。</li> </ul>

要件定義フェーズであるため、「実装前」→プロジェクト実施前「実装後(～今年度)」→プロジェクト実施後(今後)の成果を記載。

### 次年度以降の実装計画/見立て

#### MVPシステムの構築範囲設計

現在、需要者(仲卸2社、小売1社)とサービス実用化に向けた検討を推進している。他需要者へのインタビューを通して汎用化できるサービス要件を明確にし、MVPシステム構築範囲を設計する。

#### MVPシステム構築とサービス価値の検証

MVPシステムを構築し、県内生産者へ実装することを計画している。生産者と需要者が情報連携を図ることによる、生産者の売上向上への効果を評価する。